

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、本田における葉いもちの発病度¹⁾（本年値 0.1, 平年値 0.2）、置苗発病圃場率²⁾（本年値 7.5%, 平年値 7.3%）ともに平年並である。
- ② 6月下旬現在、県予察圃（水戸市）における本田の葉いもちの発病度は平年より高い（本年値 2.0, 平年値 0.1）。
- ③ いもち病の感染好適日（BLASTAM³⁾による）は、6月第5半旬に県内の広範囲でみられた。

- 1) 発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
- 2) 置苗発病圃場率：置苗に葉いもちが発生している圃場の割合
- 3) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田及びその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。
- ② 稲の葉色が濃いところや水口等を観察し、初発の確認に努める。
- ③ 例年、梅雨明けまでは発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも注意する。
- ④ 発生がみられる水田では、防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は、必ず湛水状態で薬剤を散布し、環境への配慮から1週間は止水して、湛水状態を保つ。

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、有効積算温度から予測したクモヘリカメムシの産卵開始時期は、平年よりやや早い。
- ② 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は平年よりやや多く（本年値 11.0 頭, 平年値 3.6 頭）、発生地点率は平年よりやや高い（本年値 82%, 平年値 61%）（防除所レポート参照）。

(水稲 続き)

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稲の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。
- ④ ミツバチ被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。

防除所レポート [6月下旬のイネ科雑草における斑点米カメムシ類の発生状況]

- ① 6月下旬現在、クモヘリカメムシのイネ科雑草における発生は平年より多い（表）。
- ② 6月下旬現在、アカヒゲホソミドリカスミカメのイネ科雑草における発生は、平年よりやや多い～多い。特に県北、県南地域で平年より多い発生となっている（表）。
- ③ 本県における斑点米カメムシ類の主要種は、クモヘリカメムシであるが、他県ではアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメが主要種となっている地域も多く、本種の発生にも十分注意する。

表 6月下旬のイネ科雑草における主な斑点米カメムシ類の発生状況

		イネ科雑草におけるすくい取り虫数（頭/10回振り）						発生地点率 全県 (%)
		全県	県北	県央	鹿行	県南	県西	
クモヘリカメムシ	本年	0.1 (1)	0 (1-11)	0.1 (3)	0.5 (1)	0 (1-11)	0 (1-11)	4 (2)
	平年	0.0	0	0.0	0	0	0	1
アカスジカスミカメ	本年	2.0 (6)	0.4 (3)	0.9 (5)	0.5 (5)	4.8 (2)	0.4 (7-8)	26 (4)
	平年	1.8	0.3	1.1	1.3	2.6	3.3	19
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	7.9 (2)	10.0 (1)	5.4 (4)	1.5 (4)	8.1 (2)	14.2 (3)	75 (2)
	平年	3.5	3.2	2.4	1.7	3.6	6.9	44

※（ ）内は本年を含む過去11年における順位

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，果実における発病率(本年値 0.5%，平年値 0.4%)，発生地点率(本年値 40%，平年値 42%)ともに平年並である。
- ② 6月下旬現在，県予察圃(笠間市)における発病果率は平年より高い(本年値 10.6%，平年値 1.4%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は第二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める等，適切に処分する。
- ② 薬剤散布は，発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ(第三世代幼虫)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，被害果率は平年並である。
- ② 6月下旬現在，フェロモントラップへの第一世代成虫の誘殺数は，地区予察圃(かすみがうら市)で平年より多く，土浦市で平年よりやや多く，地区予察圃(笠間市，小美玉市，石岡市)で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は，土中深く埋める等速やかに処分し，成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。
- ③ かすみがうら市，土浦市，筑西市の薬剤散布の時期については，今後，病害虫防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月第5半旬現在、果樹園に設置した予察灯への総誘殺数は、笠間市で平年よりやや多く、かすみがうら市で平年並である。
- ② 一部のナシ及びブドウ圃場で、チャバネアオカメムシの飛来が確認されている。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類は夜温が高いと活動が活発になるため、果樹園への飛来に注意する。果樹園への飛来が多い場合は、薬剤防除を行う。

夏ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害度[※]は平年よりやや高く（本年値 29.5，平年値 27.7），芯葉の被害株率は平年並（本年値 87.0%，平年値 66.7%）である。
※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 雑草にも寄生するため、圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ④ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：多い	県南、県西地域におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が、10%以上の高い値となった地点が認められている（平成28年6月9日発表 病害虫発生予察注意報第1号参照）。
	イネツトムシ	発生量：やや多い	6月下旬現在、平年よりやや多い発生である。7月中～下旬に発生が多い場合には、幼虫が小さいうちに防除を実施する。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量：平年並～やや多い	6月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
ナシ	ハダニ類	発生量：平年並～やや多い	6月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	ハマキムシ類		
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
	晩腐病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
夏ネギ	さび病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。一部圃場で多発生の圃場がみられる。
	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
夏秋ナス	ハダニ類	発生量：やや多い	6月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並～やや多い	6月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
共通害虫	ハスモンヨトウ	発生量：やや多い～多い	6月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は、県予察圃（笠間市）、土浦市、龍ヶ崎市で平年より多く、県予察圃（水戸市）、筑西市で平年よりやや多く、鉾田市で平年並である。
	オオタバコガ	発生量：平年並～やや多い	6月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は、龍ヶ崎市で平年よりやや多く、土浦市、筑西市、坂東市で平年並、鉾田市で平年よりやや少ない。夏秋ナスの一部圃場で発生を確認している。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月2日から8月1日)

気象庁(6月30日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 7月2日(土曜日)から7月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<2週目の予報> 7月9日(土曜日)から7月15日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<3週目から4週目の予報> 7月16日(土曜日)から7月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類※(FRACコード、IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポートを参照してください。